

# アルミ情報 | 406

ALUMINUM INFORMATION MAGAZINE ● 2025 AUTUMN



撮影者：石田 正博氏



TOYAMA ALUMINUM INDUSTRIAL ASSOCIATION



03

## 令和7年6月例会

事業とSDGs/ESGの同軸化 ESGの取り組みを通じたSDGsへの貢献  
リコージャパンの取り組みご紹介  
●リコージャパン株式会社 富山支社 ○前支社長／荒井 穎成氏

06

## カメラと写真文化の魅力発信

●ミュゼふくおかカメラ館 ○館長 / 石田 正博氏

08

## 会員企業紹介・40

●株式会社広瀬アルミ

10

## 先進地企業視察

●高島産業株式会社  
●株式会社ミクロ発條

12

## NEWS&TOPICS

第82回会員研修会開催・暑気払い懇親会開催・DX教育講座開催  
10月例会講演会開催・高岡市技能功労者表彰・T-Messe2025富山県ものづくり総合見本市出展

14

## アルミの統計 / わが社ジマンの社員

●アルミニウム製品品目別生産高／住宅着工総戸数  
●富源商事株式会社 ○専務取締役／竹越 好昭氏

15

## 私のひととき・100

●ST物流サービス株式会社 ○代表取締役社長／安居 吉孝氏

406

2025 autumn

JUNE REGULAR MEETING

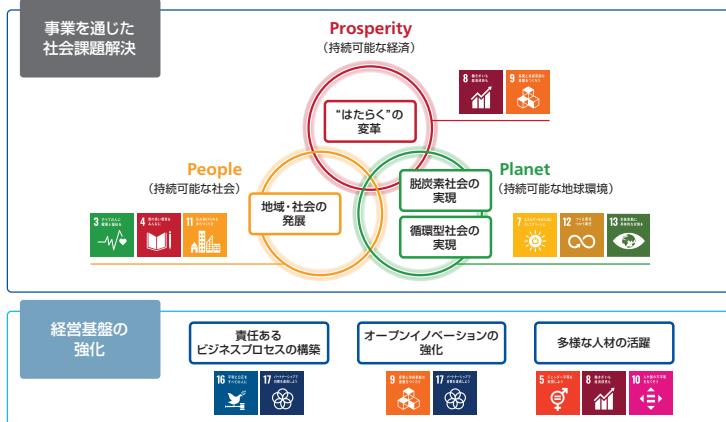
2025.06.27 FRIDAY

# 事業とSDGs/ESGの同軸化 ESGの取り組みを通じたSDGsへの貢献 リコージャパンの取り組みご紹介

講師 リコージャパン株式会社 富山支社 ■前支社長／荒井 穎成氏



## ■リコーグループの7つのマテリアリティ



## 1 サステナブルな社会実現に向けて企業に求められていること

企業には利益の追求や人材育成など、さまざまな取り組むべきことがあります。CSR（企業の社会的責任）の観点から社会課題にも取り組んでいかなければなりません。

また企業にはステークホルダー（取引先、社会、従業員、投資家）からの環境（E）・社会（S）・ガバナンス（G）に関する要求もあります。取引先からはサプライヤー行動規範への署名やアンケート調査結果が取引の条件となり、不祥事が発生すれば社会から厳しい批判を浴びます。従業員からは労災やハラスメントなど人権侵害リスクへの対応を見られており、投資家は短期的な利益よりも長期的な視点で企業の持続可能性を見ています。

投資家がESGの観点で取り組む企業を評価して投資するのがESG投資です。ESG投資額は毎年増加傾向にあります。

持続可能な開発目標（SDGs）が全世界で取り組む社会課題であるのに対し、ESGは企業共通の経営課題解決のプロセスであり、私たちリコージャパンではESGを通じてSDGsに貢献していくことを目指しています。

## 2 サステナビリティ戦略と推進

私たちリコージャパンでは、「事業とSDGs/ESGの同軸化」を掲げています。

私たちの事業は製品・サービスをお客様に提供することで

あり、お客様が製品・サービスを活用いただることを通じて、SDGsへの貢献を進めています。また自社及びパートナーと取り組む活動によるSDGsへの貢献も進めています。

リコージャパンでは、財務目標（業績）とサステナビリティ目標（社会への貢献度）の二つの経営目標を設けています。サステナビリティ目標は全て定量的な目標と成果を年度ごとに開示しています。二つの経営目標の達成が、リコーグループが「使命と目指す姿」として掲げている「はたらく」に

「遊びを」の実現につながると考えています。

## ■リコージャパンの目指す「事業とSDGs/ESGの同軸化」

### 目指す姿

お客様と共に、経済・社会・地球環境のバランスの保たれた持続可能な社会に貢献し、「はたらく」に「遊びを」実現

### 経営目標

財務目標（業績）  
サステナビリティ目標（社会への貢献度）

### 事業とSDGs/ESGの同軸化＝事業を通じた社会課題解決

製品・サービスを通じて  
お客様と進めるSDGsへの貢献  
自社+パートナーと  
取り組むSDGsへの貢献

そのためには、社員一人ひとりがSDGs/ESGに関心を持って、能動的に取り組んでいくことが重要になります。リコージャパンには「SDGsキーパーソン」という制度があります。全国に約640名のSDGsキーパーソンがあり、各地域・部門のさまざまな職種の人が自ら志願して登録しています。この制度が、当社でSDGs/ESGの取り組みが進んだ一番の肝となっています。私も富山支社のキーパーソンの一人です。

SDGsキーパーソンは、社員へのSDGs/ESGの浸透・啓発や取り組みの推進、お客様への実践事例の紹介などをやっており、2024年10月からは、地域をまたいで支援するSDGsキーパーソンプロの制度もスタートしました。

6

SDGs/ESGの取り組みを社内に浸透させるには、三つのステップが重要になると考えています。一つ目は、社員に自社の取り組みへの関心を持つもらうこと。二つ目は、学んでもらうこと。SDGs/ESGの知識だけではなく、会社がSDGs/ESGを通じて実現しようとしているビジョンを学ぶ機会を、定期的に社員に提供することも大切です。そして三つ目が、一番大事なジブンゴト化です。会社の宣言を社員にジブンゴトと捉えてもらわないと、どこかで誰かがやっているだけという意識になってしまいます。

#### ■樹脂判別ハンディセンサー



富山支社では各社員がSDGsの17の目標の中から自分ができることを一つ選んでどのような取り組みをするか宣言し、その目標を書類やパソコンを入れるボックスに貼ることで、ジブンゴト化を進めています。またリコーグループでは毎年「SDGsアクション強化月間」を設け、社員の理解を深めるためのイベントを実施しています。

### 3 リコージャパンのESGの取り組み

#### ●3-1.環境(E)

リコー環境事業開発センター（静岡県御殿場市）では、リユース・リサイクル技術の実践や包装材の環境負荷低減など、環境に特化した取り組みを行っています。リコーグループの中でも最先端の環境の取り組みが集結した拠点となっており、センター自体の見学も人気となっています。

#### ■リコー環境事業開発センター（静岡県御殿場市）



複合機における環境配慮も重要視しており、例えば、再生プラスチックを約50%使った複合機は、商品ライフサイクル全体のカーボンフットプリント(CO<sub>2</sub>排出量)を従来機よりも約27%削減することができます。カーボンオフセット(CO<sub>2</sub>排出を温室効果ガス削減活動への投資等で相殺すること)の証明書を発行するサービスも提供しており、環境面でのPRにご活用いただいております。

加えて、当社の複合機・複写機を使うことが脱炭素化につながるよう、活動に賛同したお客様が複合機を購入するごとに、マングローブの植林を行うという活動も実施しています。2024年3月現在、累計で42万本の植林を実現することができました。

脱炭素の見える化も進めており、製品・サービスによるCO<sub>2</sub>削減量を算出、開示すると共に、お客様の脱炭素に貢献できる製品として、プラスチックの種類を細かく判別できるハンディセンサーや、電池不要のCO<sub>2</sub>センサーなど、GX(グリーン・トランスフォーメーション)に活用いただける製品を販売しています。

#### ■樹脂判別ハンディセンサー



#### ●3-2.社会(S)

事業成長に寄与する人的資本経営を目指し、六つの指標を設定して取り組んでいます。事業成長につながる人的資本の強化（デジタル人財の育成、自律的な学びの促進、はたらく歓びの実感）と、人的資本の基盤の強化（ダイバーシティ&インクルージョンの推進、健康経営の推進、コンプライアンス意識の醸成）を図っています。

例えば、自律的な学びとしてはリスクリングを推奨しています、「はたらく」に歓びを」を実感するために従業員満足度を測っています。また、女性管理職比率の向上や男性社員の育児休業取得率の向上、障がい者雇用にも積極的に取り組んでいます。健康経営の観点では、健康診断などにおいて産業医にフォロー活動を行ってもらっています。

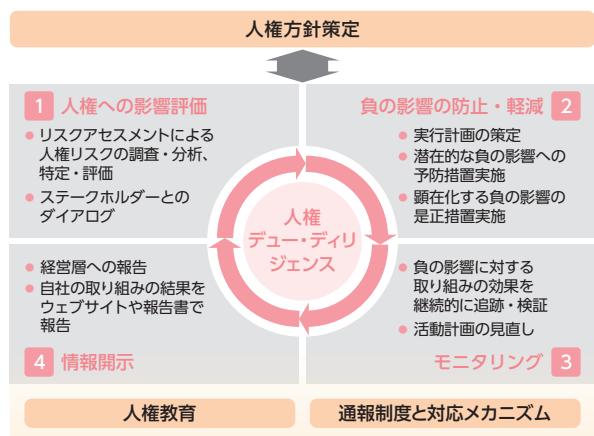
人権問題にリスクのある企業は世界のビジネス市場から排除されますので、人権方針を立て、フレームワークをしっかりと構築

することが重要になります。リコーグループでは、人権方針を立て、人権影響評価を行い、負の影響の防止・軽減策を進め、モニタリングをして、その結果を情報開示するフレームワークを作り、人権に関する取り組みを進めています。

社会貢献活動としては、パラリンアートという障がい者アーティストの自立支援を目的とした活動にゴールドパートナーとして参画・支援しています。また、献血や清掃活動も行っています。リコージャパンでは1年に1回以上、社会貢献活動への参加を呼び掛けており、参加人数はかなり多いです。

富山支社ではフードドライブといって、余った賞味期限前の食品を集めて生活困窮者支援団体、子供食堂、福祉施設等に寄贈する活動や、とやま共助の輪Projectといって、防災用品をシェアする活動も行っています。

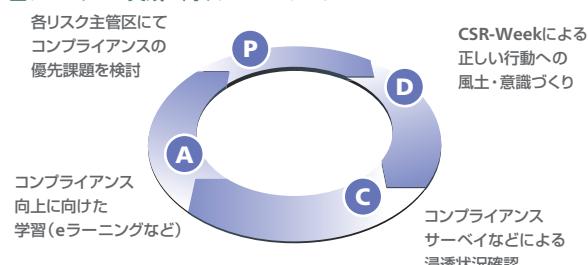
#### ■リコーグループの人権尊重の推進フレームワーク



#### ●3-3.ガバナンス (G)

ガバナンスに関しては、重視しているもののひとつにコンプライアンスの徹底があります。リコーグループでは「リコーグループ企業行動規範」を定めており、行動規範に違反、またはその恐れのある行為を知ったときの通報先として「ほっとライン」を設けることで、コンプライアンス違反の予防と早い察知に努めています。リコージャパンでは他社商品の取引のあるパートナーで、仕入金額の90%に相当する重要パートナー30社には、「リコーグループサプライ

#### ■リコーウェイ実践に向けたコンプライアンスのPDCA



イヤー・パートナー行動規範」への同意署名をお願いしています。

「万が一の大災害や事故」が発生した場合のリスク対策も重要です。発生時の被害を可能な限り抑えるとともに、復旧にかかる時間をできるだけ短縮できるようBCP(事業継続計画)を構築し、初動対応として、安否確認システムにより全従業員やその家族、家屋の被害、インフラ状況等をすぐに把握できるようにしています。

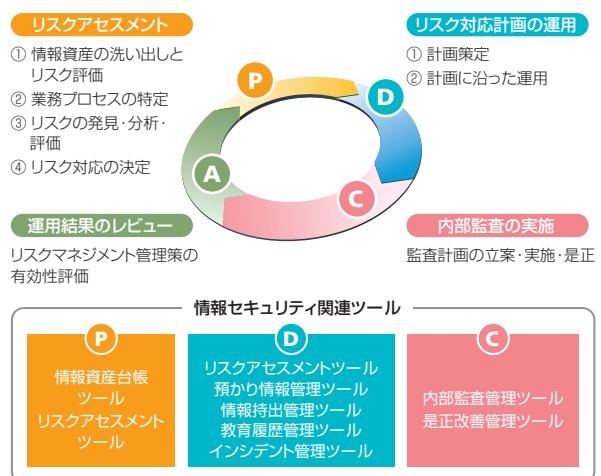
情報セキュリティの取り組みでは、情報資産を整理した上でリスク対応計画を作り、内部監査を実施して、運用結果をレビューするというISMSのサイクルを回しています。

社員には「情報セキュリティハンドブック」、マネージャー職には「情報セキュリティマネジメントガイド」で勉強してもらっています。情報セキュリティマネジメントの教育を2~3ヶ月に1回の頻度で行い、人的リスクの低減に努めています。

なお、リコージャパンでは顧客満足度調査を年2回行い、お客様の生の声を聞いています。その内容に従って改善を重ねていくことで、CSの向上を図っています。

最後になりますが、今年の6月に「サステナビリティレポート2025」をホームページに公開いたしました。そちらに、今日お話ししたことの詳細が記載されておりますので、是非ご覧いただければと思います。

#### ■情報セキュリティの推進サイクル



#### ■講師プロフィール

荒井 稔成氏 1962年9月生・富山県富山市出身

- 1985年 リコー情報システム(株)入社
- 1999年 富山リコー(株)販売事業本部 MA営業部 部長
- 2009年 リコージャパン(株)石川支社 営業部 部長
- 2013年 リコージャパン(株)中部MA事業部 MA第3営業部 部長
- 2015年 リコージャパン(株)三重支社 三重営業部 部長
- 2019年 リコージャパン(株)富山支社 支社長
- 2022年 リコージャパン(株)富山支社 シニアアドバイザー

# カメラと写真文化の魅力発信

ミュゼふくおかカメラ館 館長 ■ 石田 正博



ミュゼふくおかカメラ館はカメラと写真文化の魅力を伝えるミュージアムとして2000年9月に富山県高岡市(旧福岡町)にオープンし、今年で25周年を迎えました。前回はカメラ館の歴史と安藤忠雄氏設計の特徴を紹介させていただきました。今回は写真展のトピックスを取り上げ、作家の方々の展示等の工夫を紹介したいと思います。

■ 2024年4月～6月 中井精也写真展「ゆるてつ100選」  
館長就任1年目の初仕事は、自ら学生時代に撮影していた鉄道写真展でした。春スタートの企画はカメラ館の前にある名所岸渡川の桜並木の開花に合わせてオープンします。

中井精也氏はNHK BS「てつたび」番組でおなじみの幅広い人気を誇る鉄道写真家です。10年前に写真展を開催し、今回で2回目となります。安藤忠雄氏建築の展示について知り尽くしておられ、作品サイズを同一にして100点の展示レイアウトとなり、見やすくなっています。近年の鉄道ファンブームもあり、開幕より全国から来館者が訪れ、賑わいました。

写真展の特徴として、

- ①写真展は2回目であり、レイアウトにもメリハリがあり、地元での知名度が上がって前回より入館者が増えた
- ②作品展示は、ほぼ新作で今回がけら落として新鮮だった
- ③NHK BS出演で知名度が絶大で、NHK富山支局での取材放映もあった
- ④明るい性格でギャラリートークとサイン会が盛り上がった
- ⑤移動式の販売方式として画廊NOMADショップとして運営しお客を掴んでいる
- ⑥画廊NOMADショップでお客様との交流を大切にして、一緒に写真に写ったり、サインしたり、鉄道の話をしたりとサービスを徹底している
- ⑦開催地元の写真をメインビジュアル作品としてポスター・フレイターに使用している



⑧写真展開催中に地元での鉄道撮影ツアーを企画し県外からの来館を促している

⑨展示作品が日本の美しい風景の中に鉄道を入れた作品が多く、撮り鉄以外の風景写真が好きな方にも来ていただけた

⑩写真集も価格に配慮しており売れている

⑪今回はブログ「1日1鉄!」20周年記念とアピールしているなど、いろいろな工夫がされていました。

## ■ 2025年3月～6月 高砂淳二写真展「LIGHT on LIFE」

館長就任2年目の春企画として、愛情溢れる動物と生物写真で人気の高砂淳二写真展を開催しました。高砂氏は水中カメラマンからスタートし、その後、南極付近のペンギン、北極のシロクマと撮影地のエリアは広がってきています。

招致理由は何と言っても自然写真の世界最高峰といわれる「ワイルドライフ・フォトグラファー・オブ・ザ・イヤー 2022」自然芸術性部門で最優秀賞を受賞したウユニ湖のフラミンゴの写真です。新型コロナ前まで撮影ツアーを行っていたとのこと。作品コメントには「フラミンゴ群が居る光景はこれまでに経験がなかった」とあります。

高砂氏の人気の源は愛情表現が豊かなことと環境問題への意識の提唱が感じられる点です。命の源である水との関わりや地球の生き物たちを優しいまなざしでとらえています。さらに作

品への見せ方の工夫として、会場入口付近を暗くしてスポットライトの光により水族館にでも行ったような雰囲気をかもし出し、水中のクラゲ、ホヤ、イソギンチャクの作品が生き生きと動いているかのように表現されていました。



## ■ 2025年6月～8月 土肥美帆写真展

### 「北に生きる猫」—みんなケンジを好きになる—

夏の企画については、夏休みもあり子供たち家族を中心に幅広い世代に来ていただきました。土肥氏は小樽で生きる猫たちの姿を撮り続け、とりわけボス猫「ケンジ」のユーモラスな喰きを交えながら北に生きる猫たちの現実の姿をとらえています。猫写真展は好評で今回で7回目となり、SNSで人気の土肥氏を招致しました。土肥氏はJPS展文部科学大臣賞、ニッコールフォトコンテスト大賞(モノクロームの部)、岩合光昭ネコ写真フォトコンテストで2年連続グランプリ受賞と実力派である点、ボス猫ケンジの思わず笑ってしまうユニークな表情や北の暮らしをほっこりとした気分で味わえる点に好感を持ちました。

猫好きな人はもちろん、写真爱好者にも勉強になる作品展示になるよう工夫されていました。写真集、ポストカード、オリジナルグッズもほぼ完売でした。土肥氏の工夫点として、

- ①価格を抑えた小さな写真集
- ②オリジナルグッズの種類が多く、ネット販売も行っている
- ③売れ行き状況に応じ、グッズの種類を追加
- ④撮影スポット用に数種類もの猫のお面の制作
- ⑤多くのSNSフォロワーへの情報提供



⑥オリジナルグッズを自身が考案し、付加価値を付けているなどが挙げられます。以上、作家たちの工夫が皆さんのお手本に参考になれば幸いです。

### ■ 今後の写真展スケジュール

- 三輪 薫写真展「風の香り」—伊勢和紙作品—  
～日本のこころの自然風景と花～  
2025年11月1日(土)～2026年1月12日(月祝)
- 2025年 第50回「視点」富山巡回展  
2026年1月17日(土)～2月15日(日)
- ワンダーフォト写真展 ※募集中 6月1日から2026年1月13日  
2026年2月21日(土)～3月22日(日)

### ■ ご利用案内

詳細はホームページをご覧ください。<https://www.camerakan.com/>



「和」「創造」「対話」の精神をモットーに、  
お客様に満足いただける製品作りを通じて、社会の発展に貢献いたします。

■ Membership data / カブシキガイシャ ヒロセアルミ

●所在地 / 〒933-1131 富山県高岡市醍醐790番地 ●TEL / 0766-63-5360 ●FAX / 0766-63-8040

社屋外観



ビジョン

### 「変化に恐れず、挑戦を常態とする企業を目指す」

弊社は江戸中期に銅製品の製造から始まり、1972年4月にアルミサッシ加工業として設立しました。現在は住宅建材、及びエクステリア製品の製造を行っており、経営方針である「変化に恐れず、挑戦を常態とする企業を目指す」を理念とし、三協立山株式会社様の商品を通じ、日本全国のエンドユーチャーの方に喜びと満足を伝えるため、日夜研鑽を積み重ね活動しています。

弊社の強みとして、治具や金型の製作を自社で行うことができるため、作業改善にスピード感をもって取り組んでおります。また、計画的な多能工化の推進、従業員が更なる成長できるよう、改善活動や教育環境の構築を行うなど様々な取り組みについて目標を立て、創意工夫をもってチャレンジし会社の繁栄、従業員の幸福、地域社会への貢献に取り組んでいます。

今後も更なるアルミ産業界の発展のため、安全第一を最優先に、更なる品質向上、生産拡大を目指して会員各社の皆様と共に成長していきたいと考えます。





(株)広瀬アルミ



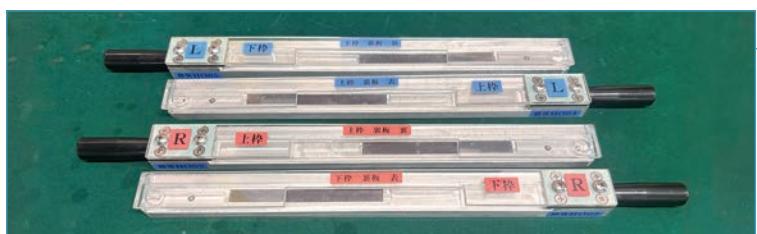
多段プレスでの加工



製品梱包

#### 主な生産品目

- 住宅製品の一貫生産
  - ・アルミ複層仕様装飾窓
  - ・勝手口枠
  - ・玄関引戸枠
  - ・無目方立等補助部材
- エクステリア製品の一貫生産
  - ・歩行者用補助手摺
  - ・形材フェンス
  - ・ゴミ収納庫



弊社製作治具①



弊社製作治具②



縦にり出し窓施工(※1)



形材フェンス施工(※2)

#### 生産工程(設備)

- ・NC縦フライス 2基
- ・切断機 7基
- ・プレス 92基
- ・部品付け 5ライン
- ・組立 2ライン
- ・梱包 3ライン

#### 生産拠点

- 高岡工場 1ライン
- 福光工場 6ライン
- 福野事業所 2ライン
- 福光事業所 3ライン

(※1・2)画像提供 / 三協立山株式会社



## 高島産業株式会社

10月15日(水)・16日(木)の両日、先進的な企業経営に取り組む工場の見学会を開催しました。

1日目は八ヶ岳の麓、長野県茅野市に位置する高島産業株式会社を訪問しました。同社は精密機械加工のスペシャリストとして、腕時計部品から医療機器、半導体製造装置に至るまで、高度な技術力を要する製品を手がけています。最新鋭の工作機械と熟練技術者の繊細な作業が融合する製造現場は、日本のものづくりの真髄を体现していました。今回の見学では、多品種少量生産を可能にする柔軟な生産体制と品質管理の徹底ぶりに特に感銘を受けました。



### inspection report

三協立山株式会社 三協マテリアル社 技術開発統括室 基盤技術部 押出・加工技術課 金岡 拓海

高島産業株式会社は、長野県茅野市に本社を置く、微細な加工部品を主力事業とする会社です。同社では、腕時計製造で培った精密加工技術（切削、研磨、かしめ、石・セラミックの加工）を駆使し、現在では腕時計部品に限らず、医療や半導体関連の微細金属部品にまで事業領域を拡大されています。当日は、小口社長より会社概要のご説明と工場をご案内いただきました。

会社説明で特に興味深いと感じたのは、事業と主力製品の変遷です。同社は創業以来、木樽から時計の木枠、腕時計の金属部品、医療・半導体向け金属部品へと主力製品を変遷させてきました。時代背景に合わせて臨機応変に会社の方向性を変化させ、常に新規事業に取り組んできた姿勢は、私たちにとって参考にすべき点が数多くあると感じました。同社のように時代の変化に対応していくには、新規技術の情報収集やトライを通して「技術の引き出し」を豊富に持ち、必要な時にいつでも引き出して利用できる体制づくりが不可欠であると痛感しました。

工場見学においてまず印象に残ったのは、工場内部の清潔さでした。工場内の整理整頓が徹底されていることはもちろんですが、特に印象的だったのは、スリッパのまま工場を見学できることです。スリッパのまま見学できるほど床面が清潔に保たれており、これは重量物や落下物に対する安全管理が徹底されていることの表れであると感じました。

製造工程に関しては、省人化・自動化への強い意欲を感じました。例えば、NC加工機では、付帯する検査・計測装置からのフィードバックを基に切り込み量の自動調整を行うことで、品質の安定化を図っていました。また、この取り組みにおいては、今後はAIも活用していきたいとのことでした。先に述べた新規技術に対する情報収集と、それを活用しようとする積極性を強く感じました。その他、工場の機械のいくつかは同社独自に改修されており、使用する機械への知見の深さに感銘を受けるとともに、より良い製品を作るためには常に創意工夫が必要であると改めて考えさせられました。



## 株式会社ミクロ発條

2日目は、諏訪湖を望む長野県諏訪市に拠点を構える株式会社ミクロ発條を訪問しました。

同社は精密ばね製造のパイオニアとして、ボールペンから時計部品、半導体検査装置など、微細かつ高精度なばね製品を手がけています。髪の毛よりも細い線材を扱う繊細な技術と、最新の自動化設備が調和した製造現場は圧巻でした。諏訪地域の精密工業の伝統を受け継ぎながらも、常に革新を続ける同社の姿勢は、日本の精密加工技術の高さを如実に物語っていました。

なお、今回の参加者は16社から20名でした。



### inspection report

一般社団法人富山県アルミ産業協会 矢野 伸之

株式会社ミクロ発條は、髪の毛の1/5ほどの極細線(13ミクロンなど)を加工する精密コイルバネの専門メーカーであり、半導体や医療機器向けの微細バネ技術で世界をリードしています。同社の工場は「ミクロ一味の秘密基地」というユニークなコンセプトで設計され、中庭やカフェ、バーまで備える創造的な空間です。一方で、製品品質保証のため、製造エリアでは温度変化を1度以内に抑える厳格な環境管理を徹底しています。

主力製品の一つであるボールペン先のボールを支えるバネは世界トップシェアを誇ります。外径わずか80ミクロンという半導体検査用極小バネも重要製品で、半導体需要増により売上の約65%が半導体関連とのことです。アップルウォッチに13個使用されるなど、多数の製品に採用されています。

同社の強みは製造設備の内製化にあります。1970年代後半に業界初のNCコilingマシンを自社開発して以来、市販機を凌駕する独自の製造装置を開発・運用し、高品質な精密バネ製造を可能にしています。

経営面では、かつてのコスト競争から「うちでしかダメ」という独自の価値創造へと戦略を転換。「関わるすべての人々を虜にする企業」という理念のもと、世界一の技術追求を目指しております。また、「製品現場を中心に置く」姿勢が、生産キャパシティ、顧客対応力、問題解決力という強みを生み出し、国内外でのグローバル事業を推進しています。

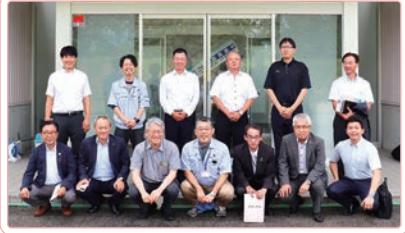
企业文化として、4色から選べる制服やニックネーム制の採用など、従業員の個性を尊重する自由でオープンな社風が特筆されます。また、月1回の会社周辺清掃など地域社会への貢献活動にも積極的です。

今回の製造ライン見学では、多品種の精密バネが高い品質基準で製造される様子を確認できました。徹底した品質管理と、社員の個性を大切にする職場環境づくりが、同社の競争力の源泉となっていることを実感しました。小島社長をはじめとする幹部の方々の丁寧なご対応により、大変有意義な機会を得られました。

## ＼ NEWS●01 ／

## 研修会開催

**第82回会員研修会を開催しました。**



7月15日(火)に13名が参加し、上市町の「株式会社コーポレーション」様を訪問しました。同社は1974年の創業以来、堅型インサート成型方式を主体とした製造技術により、半導体部品や自動車・電化製品用部品など、多様なプラスチック製品を生産されています。「挑戦・飛躍」を社是に掲げ、自社の卓越した技術向上への絶え間ない挑戦と、QCサークル活動を通じた社員一人ひとりの成長への取り組みについて、見学させていただきました。訪問にあたっては、小柴社長はじめ幹部の方々にご対応いただき、充実した企業視察となりました。

## ＼ NEWS●02 ／

## 懇親会開催

**暑気払い懇親会を開催しました。**



猛暑が続く中、8月5日(火)高岡商工レストラン松風において、33名の会員様にご参加いただき暑気払い懇親会を開催いたしました。懇親会は平能会長のご挨拶で始まり、廣上委員長の乾杯のご発声で開宴。冷たい飲み物と美味しい料理を楽しみながら、会員様同士の親睦を深める貴重な時間となりました。閉会にあたっては、西川副会長より締めのお言葉をいただきました。今後も会員様同士の交流を深める機会を積極的に設けてまいります。ご多忙の中ご参加いただいた皆様に、心より御礼申し上げます。

## ＼ NEWS●03 ／

## 研修会開催

**DX教育講座を開催しました。**



(一社)富山県機電工業会と(一社)富山県繊維協会との共同企画として、会員企業のデジタル人材育成を目的としたDX教育講座を下記の日程で開催いたしました。

- 8月29日(金)「ノーコードツール開発入門講座」
- 9月12日(金)「ローコードツール開発入門講座」
- 10月7日(火)「ロジカルシンキング講座」
- 11月17日(月)「はじめての要件設定講座」

本講座では、デジタルツールの活用方法から論理的思考力、システム要件の設定まで、DX推進に必要なスキルを体系的に学ぶ機会を提供しました。

## NEWS●04 /

## 例会開催

10月例会講演会を開催しました。



10月24日(金)高岡商工ビル10階会議室において44名出席のもと、10月例会を開催しました。今回の例会では、西川副会長の挨拶に続き、株式会社AIST Solutions Vice CTO 和泉憲明氏から「生成AI時代の製造DX—技術革新は社会実装へ」と題して、DXによる産業構造変革の必要性と予兆、すでに始まっている製造DXの現在地と変革の方向性、生成AIによるDXの特徴、DX推進に求められる技術・人材・経営について、約80分間にわたり熱心にご講演いただきました。

## NEWS●05 /

## 高岡市技能功労者表彰

令和7年度高岡市技能功労者を受賞されました。



高岡市技能功労者表彰|令和7年度高岡市技能功労者を受賞されました。10月30日に高岡市役所において、「令和7年度高岡市技能功労者表彰式」が行われ、専門的な技術を活かし、商工業の発展に貢献した8名の方々が受賞されました。当協会からは、渡邊昌広氏、早川貢氏、三島猛氏(以上三協立山株式会社三協アルミ社)、光林博志氏(ゼオンノース株式会社)の計4名が受賞され、出町高岡市長より表彰状と記念品を授与されました。(写真は左から渡邊氏、早川氏、出町市長、三島氏、光林氏)

## NEWS●06 /

## 展示会出展

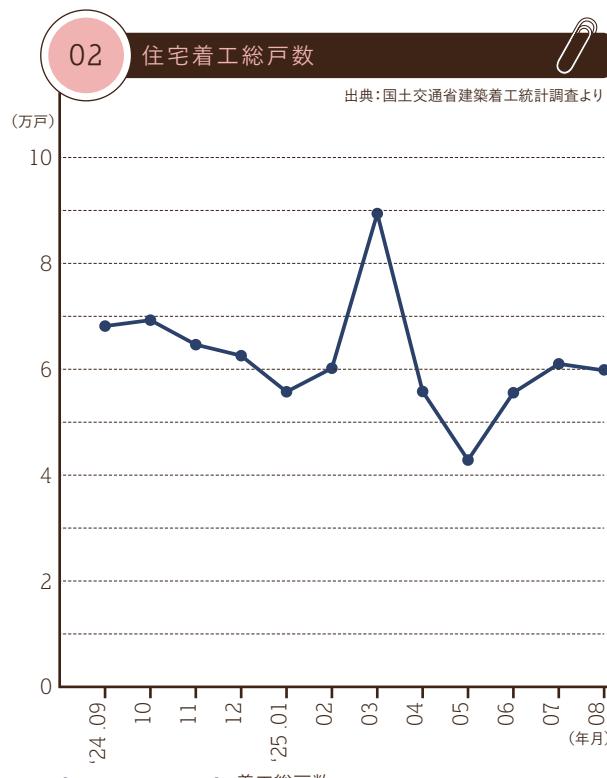
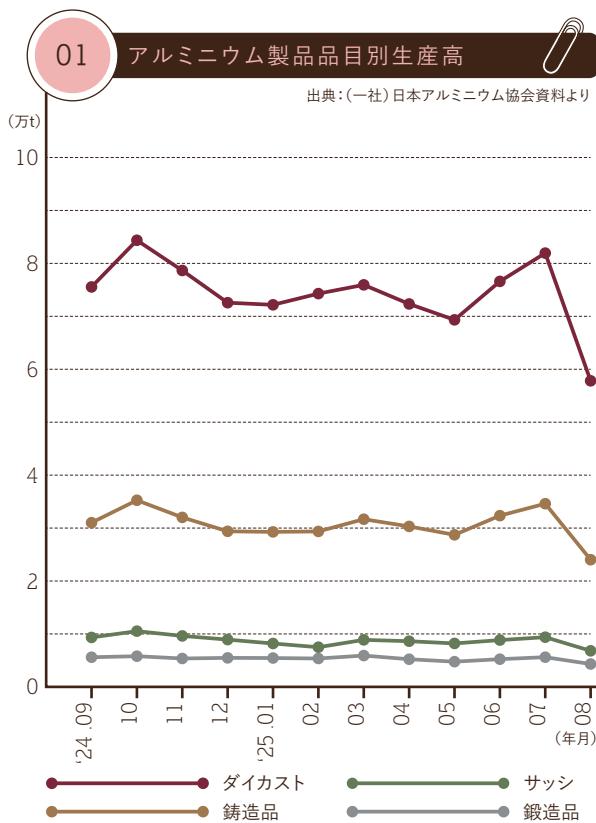
T-Messe 2025  
富山県ものづくり  
総合見本市に出展しました。



富山産業展示館(テクノホール)にて、10月30日(木)～11月1日(土)3日間にわたって開催された「T-Messe2025」に、当協会加盟7社による連携ブースを構え、多数の方々にご訪問いただきました。初日の30日は、オープニングセレモニー後に新田富山県知事が当協会のブースに立ち寄られ、平能会長が展示品の説明を行いました。またリクルートセッションでは、当協会を代表して三協立山株式会社三協アルミ社の小林さやかさんから、来場学生に向けて熱意あるプレゼンテーションを行っていただきました。

## アルミの統計

## アルミニウム製品品目別生産高・住宅着工総戸数



わが社

富源商事株式会社 ● 専務取締役 竹越 好昭



## 【我が社野球部の元気印】

今回、弊社の新井秀和（ひでかず）さんをご紹介します。

新井さんは大阪府生まれで富山県の高校、大学を卒業後、我が社に入社した現在41歳の男性です。

我が社には野球部があり近年、全国大会にも数多く出場しており、新井さんは現在も野球部に所属しております。我が野球部の平均年齢は30代前後が多くを占めておりますが、新井さんは年齢を感じさせることなくハツラツとプレーしております。

試合前は必ず新井さんの声出しから始まりチームの士気を上げてくれます。チームがまとまっていると感じた時には、口調の激しい関西弁と優しい富山弁を巧みに使い、チームを鼓舞してくれます。本人は「早く引退したい」と言っておりますが、チームとして必要な存在であり、チーム一丸となって“野球部の元気印”的引退を阻止し、更に高みを目指して頑張ってほしいと思います。



# 私の ひと と き

STORY  
100

安居  
吉孝

ST  
物流  
サ  
ー  
ビ  
ス  
株  
式  
会  
社  
■  
代  
表  
取  
締  
役  
社  
長



## 昭和のひととき

YASUI YOSHITAKA's "MY HAPPY TIME!"

今年は昭和100年と言われますが、私は昭和33年の生まれで、現在は60代後半を頑張っているところです。昭和は自分の中ではそんなに色褪せたものではありませんが、さすがに遠くなりつつあるようで、寂しい気もしますね。ということでチョット懐かしい「昭和のひととき」を振り返ってみました。

中学に入った頃、ラジオが欲しくてならず農家である家の手伝いをめっちゃ頑張って父にせがんでおりました。父は若い頃、真空管のラジオを組み立ててた、なんて自慢でしたが、我家にラジオはありませんでした。6月のある日、息子の手伝いぶりを認めてくれたのか、町の電気店でトランジスタラジオ（写真のもの）を買ってきました。夢のようでしたね。

「スリーバンド（AM、FM、短波）」のラジオで、これに蒸気機関車D51のシールなんか貼ったりし、勉強もそっちのけでラジオの世界に浸りました。天地真理や沢田研二も良かったんですが、ラジオから流れる洋楽は新鮮で全く異なる世界を感じました。

ピートルズ、カーペンターズ、エルトンジョン、スティービーワンダーetc…懐かしいですね。ラジオで聴き、町のレコード屋でレコードジャケットを眺めたりしてました。

高校になると深夜放送の虜となって、オールナイトニッポン、セイヤング等、好きなパーソナリティの番組を聴くため、帰宅後まず仮眠をとり夜に備える生活を送っていました。夜になるとなぜか韓国系の電波が感度よく入り、文化放送なんてなかなか入らない、チューニングのダイヤルさらにはラジオの向きと微調整がたいへんでした。落合恵子さんの大人な知的雰囲気も惹かれましたが、どちらかというと谷村新司さんの天才秀才バカのコーナーや笑福亭鶴光さんのキワドい話を楽しみにしておりました。

また、深夜放送ではありませんが、「小沢昭一的こころ（番組名）」の人情的、庶民的な話、語りっぷりも好きでよく聴いておりました。



今、「明日のこころだ～！」なんて言っても、知る人が少ないので寂しいですね。ともあれ、ラジオは小さな田舎に住む少年の世界を大きく広げてくれました。

あれから50年が過ぎ、今じゃラジオを聴くのは通勤の車の中だけとなっていました。

父に買ってもらったラジオも埃をかぶったままです。だけど今もラジオファンは多くて、NHKの「ラジオ深夜便」なんて静かな人気番組らしいです。家内の父もラジオ好きで特に晩年は眼の調子が良くなかったこともあり、早朝の「ラジオ深夜便」に始まり、終日、聴いておられました（田端義夫「梅と兵隊」が十八番）。

これだけいろんな情報や娯楽が24時間いつでも手に入る時代であっても、レトロ、アナログ的なラジオが健在なのは嬉しいですね。これから秋や冬の夜長にラジオはいいかも…。

すぐ寝ちゃいそうですね。

ということで、私のチョット懐かしい「昭和のひととき」でした。60代以上の方にしかわかつていただけないような内容でたいへん失礼いたしました。会員の皆様、今後ともどうかよろしくお願ひいたします。





## 一般社団法人 富山県アルミ産業協会

〒933-0912 高岡市丸の内1番40号 高岡商工ビル6F

TEL:0766-21-1388 FAX:0766-21-5970

E-mail ●toyama-al@alumi.or.jp

URL●<https://alumi.or.jp/>

